一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ

2022 年度　活動結果報告書

【1】　ダイアログ・イン・ザ・ダーク　及び　ダイアログ・イン・サイレンス　の開催

・ダイアログ・イン・ザ・ダークを季節に応じたプログラムにて開催
　歓喜バージョン　2022 年 4 月 29 日～5 月 29 日　※【3】と連動
　その他、夏バージョン/秋のまっくら大運動会/秋を感じる見えない東北の旅/
　クリスマス・イン・ザ・ダーク/LOVE IN THE DARK　を季節に応じて開催
・神宮外苑会場にてダイアログ・イン・ザ・ダークを開催

・ダイアログ・イン・サイレンス　ウィンター2022 の開催
　2022 年 12 月 10 日～　2023 年 3 月 14 日

【2】　ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」に名称変更

・ミュージアム設立 3 年目に入るタイミングで、よりダイバーシティを深化させるねらいの元、名称を上記に変更する。ホームページにて発信。ロゴも変更。

【3】　体験型写真展「第九のきせき」開催

・2022 年 4 月 29 日～5 月 29 日にわたり開催

26 年前に聴覚に障害のある子どもたちを中心に歌詞を手話でオリジナルに表現(手歌)し、音楽を楽しむ試みが南米ベネズエラで生まれ、白い手袋をして歌の世界を表現したことからホワイトハンドコーラスと呼ばれる。日本ではホワイトハンドコーラスNIPPONとして活動しており、写真家　田頭真理子氏がその歌詞の一部を写真撮影し、可視化。

　開催期間中、来場者にも田頭氏の撮影の機会を提供。ヴェートーベン第九交響曲「歓喜」の歌詞の一部を手話表現していただき、写真を展示するブースを設置した＜体験型写真展＞

【4】　リアル対話ゲーム「地図を持たないワタシ」開催

・日本初、オリジナルコンテンツである新プログラムを 7/20～8/14 に開催。
　当初 8/10 までの予定を好評だったため、4 日間延長して実施。
・案内役のキャストは聴覚または視覚に障害がある人の他、LGBTQ、低身長の人、
　車いすユーザー、マイノリティの人も参画。
　参加者はキャストとともに「誰ひとり取り残さないこと」をルールとした課題を
　クリアしながら８つの部屋を体験。対話を通して他者に想いを馳せ、自らの固定観念を
　解き放ち、人が皆、自分の中で地図を定め、定点を決めていることを一度手放し、違う誰かの定点から社会を見つめ直すことで気づきや成長の機会を提供した。

【5】　アテンドスクール及びインターンシップ（視覚障害者対象）の開講

・アテンドスクール　：2022 年 8 月 9 日～8 月 21 日　2 期に分かれて実施　参加人数　6 名
盲学校・高校・大学に通っている学生を対象に開講

・インターンシップ　：2023 年 2 月 24 日～2 月 26 日　3 日間実施　参加人数　3 名

＜インターンシップの目的＞

・様々な人との関わりを通して、社会で働くために必要となるマナーやコミュニケーション能力を養う。

・視覚障害当事者としての個性を発揮して接客業に携わる中で、ホスピタリティ精神を身につける。

・アテンドとして働いている視覚障害者との関わりを通して、自立した社会人の生の声を聞く機会を作る

【6】　「5,000 人の子どもたちをダイアログに」プロジェクトを継続

・コロナ禍で人とのつながりが希薄になっている現状を踏まえ、多様な人と出会い「対話」を通して学びの場を提供。他社と助け合うことや相互理解、認め合うことのできる機会を創出。

※当初予定の「ダイアログ・ウィズ・タイム開催」に関しては、新型コロナ感染症の感染者数増加を踏まえて、2023 年開催に延期といたしました。2022 年 8 月決定。

一般社団法人 ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ
Dialogue Japan Society